

- ① 国見町には高校も大学もなく、中学校を卒業すると地域での交流の機会がなくなり、若者と町、若者と地域住民との繋がりが希薄化。
- ② 「若者の学び・活動・交流の場」が他地域へ移ることにより、地域への愛着が薄れ、若者の「まちづくり」への参画や意見が反映されにくい状況。

II 取り組みの内容と目的

国見町の地域資源を活かした多様な交流・学びの場を設け、地域全体で若者の「思考力・表現力・判断力」や「学ぶ意欲・姿勢」を育成し、地域への愛着を醸成。これからの時代を主体的に生き抜く力を身に着ける。

国見ホイスコーレ～人生100年時代を生きる多世代の学びの学校～

1 国見プロジェクト学習 対象：中学生

・学校での勉強とは異なる多様な切り口で興味関心を広げ、学ぶ楽しさを感じる場。「学ぶとは何か？」を考えることで自分たちが「いかに生きるか」という問いに向き合う。



2 国見カスタムラボ 対象：高校生～若手社会人



・若者が「やりたいこと」を見つけ、イベントなどを通じて国見町でカタチにする場。普段の生活では出会わない仲間たちや大人たちと主体的に生きる力を育む。

3 短期プログラム 対象：高校生～ (都會在住者がメイン)

自分のこれまでの生き方を考え、見直す場。様々な年齢、職業、バックグラウンドを持つ参加者が集まり、共同生活の中で余白と対話を通じて学びを深める。



Point!

大人も「チーム」として生徒たちと関係性を構築！

- ・大人は若者に「教える」のではなく、大人も若者から学び、両者ともに「育っていく」もの。
- ・その認識を運営メンバーでも共有。全員がフラットな立場で信頼できる関係性を構築。
- ・参加者も時には主催者となり運営を行うなど、自走への第1歩を歩み始めている。